

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）

水球競技戦評

期日：令和7年8月19日（火）
会場：山口きらら博記念公園水泳プール

ゲームNo.

17

帽子の色 白

前橋商業

12

4 - 3
2 - 2
2 - 4
4 - 1
PSO

帽子の色 青

金沢市立工業

10

審判1：深谷周平
審判2：城之下智喜

戦評

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 兼 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）は、8月19日（火）、山口きらら博記念公園水泳プールで行われ、準決勝第2試合では前橋商業高等学校（白帽）と金沢市立工業高等学校（青帽）が激突した。ともに準々決勝を堂々と勝ち抜いてきた強豪同士の対戦は、全国の舞台にふさわしい緊張感と迫力に満ちた試合展開となった。

試合の立ち上がりから両校の攻撃陣が火花を散らした。前橋商業は⑤椎名が立て続けにミドルシュートを沈め、勢いをもたらす。さらに⑥前田がゴール前から巧みなバックシュートを決め、④齋藤が退水を誘発して得点を重ねた。これに対し金沢工は②松野の力強いミドルシュートがポストを叩きながらゴールに吸い込まれ、会場を沸かせる。⑥水浦も持ち味の突破力を発揮し、数的有利を生かした得点や豪快なシュートで応戦。第1ピリオドは前橋商業が4-3とわずかにリードする形で終了した。

第2ピリオドに入ると、互いに守備の集中力を高めつつも、鋭い攻撃を繰り出す展開が続く。前橋商業は⑦星のカウンター、④齋藤の確実なミドルシュートで得点を挙げた。一方の金沢工も②松野がゴール前で相手をかわして決めると、⑧前田侑が退水を誘発して⑥水浦につなぎ、チームに勢いをもたらした。両者一歩も引かぬ攻防により、このピリオドは2-2。前半は6-5で前橋商業が僅差のリードを保った。

第3ピリオドでは金沢工の攻撃力が際立った。開始直後に⑧前田侑がミドルシュートを決め、試合を振り出しに戻すと、⑥水浦が相手を引きつけて④角尾が得点。GK①富岡の好セーブで前橋商業は金沢工の追撃を防ぐ場面もあった。さらに⑧前田侑のゴール前での得点、④角尾の華麗なフィニッシュが続き、金沢工が逆転に成功。前橋商業も⑥前田や⑦星のシュートで応戦したが、このピリオドは4-2で金沢工が優勢を握り、試合は一気に緊迫感を増した。

迎えた最終第4ピリオド。ここで勝負強さを発揮したのが前橋商業だった。⑤椎名が再び強烈なミドルを沈めると、④齋藤が巧みなフェイクから追加点。さらに⑥前田がカウンターを仕留め、チーム全体が勢いに乗った。守備面でも相手の退水チャンスを粘り強く守り抜き、集中力の高さを示した。金沢工も⑥水浦のバウンドシュートや攻撃的な仕掛けで食い下がったが、得点を重ねきることができず、勝敗の天秤は徐々に前橋商業へと傾いた。最終スコアは12-10。接戦を制した前橋商業が決勝進出を果たした。

この試合の見どころは、勝敗以上に両校が見せた高い水準の攻防にあった。前橋商業は⑤椎名や④齋藤、⑥前田ら主力が得点を重ねつつ、守備ではGK富岡を中心に粘り強さを発揮。チーム全員が「勝ち切る力」を示した。一方の金沢工も②松野や⑥水浦、⑧前田侑らが多彩な攻撃で魅了し、持ち味のスピードと連携を遺憾なく発揮。敗れはしたものの、その内容は観客に強い印象を残した。

全国の大舞台でここまで互角の戦いを見せられるチームは多くない。前橋商業の勝利は称賛に値するが、金沢市立工業が繰り広げた粘り強い試合運びもまた、未来の水球界を支える財産となるに違いない。両校がぶつかり合ったこの一戦は、まさに準決勝にふさわしいハイレベルな試合であり、選手一人ひとりの努力と誇りが詰まった熱戦となった。

最終スコア12-10で前橋商業が勝利し、決勝への切符を手にしたが、観客の拍手は両校の健闘に惜しみなく送られた。